

2009年11月4日

各位

オリックス株式会社
(コード番号:8591)

2010年3月期 第2四半期連結決算(4~9月)
～当期純利益は202億円(通期見通し対比67%)～

2010年3月期第2四半期(2009年4月1日～2009年9月30日)の米国会計基準連結決算における当期純利益は202億円となりました。主に海外、リテール、不動産の各事業部門からの利益貢献により今期の業績見通し300億円に対する進捗率は67%となり、前第4四半期以降、税引前当期純利益は3四半期連続改善し、業績は順調に回復しています。

特に、今回の未曾有の金融経済危機への対応、施策については前倒しで実施してまいりました。その結果、DEレシオ・資産圧縮は通期目標を達成し、体質強化も加速度的に進展しています。

■ 第2四半期決算のポイント

	主要項目	上半期業績	通期見通し	進捗率
1	当期純利益 (※1)	202 億円	300 億円	67%
2	DEレシオ (※2)	3.7 倍	4 倍以下	達成
3	資産の圧縮 (※3)	5,613 億円	4,327 億円	達成
4	不動産関連資産の圧縮	1,339 億円	2,912 億円	46%
5	クレジットコスト	395 億円	780 億円	51%

(※1) 「当期純利益」は、決算短信等の財務諸表で記載している「当社株主に帰属する四半期純利益」と同じ。本リリースにおいては、以下同様。

(※2) オリックス信託銀行の預金を除く。

(※3) セグメント資産合計。

業績総括
・上半期の当期純利益は 202 億円と通期業績見通しの 67%達成
・海外事業部門は好調、リテール・不動産事業部門も堅調
(海外) 米州での投資有価証券およびアジアでの PI 投資からの利益が貢献
(リテール) オリックス・クレジットの株式売却益を計上
生命保険事業において、保険損益および運用損益が改善
(不動産) 当第 2 四半期の大型物件も含め、売却益が実現

オリックスグループは、2010年3月期においても世界的な経済の減速と信用収縮に適合するため、財務の安定性と資産の健全性を確保しつつ収益の向上を図り、企業体質の強化と事業の再構築を行っています。この経営方針に基づいたさまざまな施策の遂行により、2010年3月期通期の連結業績見通しについては、営業収益9,600億円(前期比10.8%減)、当期純利益300億円(前期比36.8%増)を予想し、緩やかな業績の回復を目指します。(2009年3月期決算短信に記載した業績予想と同じ内容です。)

■ 主な経営指標の推移

四半期連結業績の推移

	2008.7-9	2008.10-12	2009.1-3	2009.4-6	2009.7-9
営業収益(売上高) (億円)	2,786	2,454	2,737	2,374	2,341
税引前当期純利益(※1) (億円)	419	▲628	▲46	124	212
当期純利益 (億円)	229	▲419	86	72	130
ROE(株主資本当期純利益率、年換算)	7.3%	▲14.0%	3.0%	2.5%	4.2%
ROA(総資本当期純利益率、年換算)	1.02%	▲1.92%	0.41%	0.35%	0.65%

(※1) 非継続事業控除前。

	2009.3	2009.9	増減率(%)
株主資本 (億円)	11,675	12,654	+8%
総資産 (億円)	83,697	79,185	▲5%
D/Eレシオ(※2)	4.5 倍	3.7 倍	—
株主資本比率	13.9%	16.0%	—

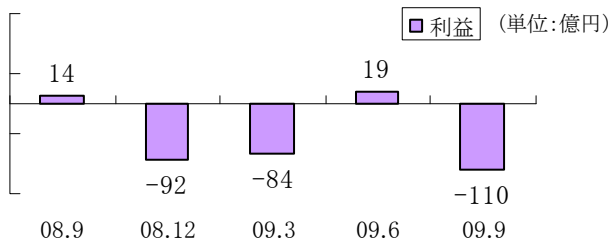
(※2) オリックス信託銀行の預金を除く。

■ 各セグメント利益(税引前当期純利益)の四半期推移

当第1四半期と比較すると、「法人金融サービス事業部門」は貸倒引当金繰入額の増加により赤字を計上しましたが、「投資銀行事業部門」の赤字幅は減少し、「メンテナンスリース事業部門」「不動産事業部門」「リテール事業部門」で利益が増加、「海外事業部門」は計画を上回る利益水準を維持するなど、業績は回復基調です。(詳細については、2010年3月期 第2四半期決算短信 P3～P5およびP13をご覧ください。)

【法人金融サービス事業部門】

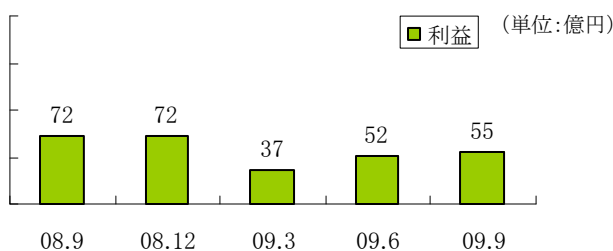
融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス



- ・ 案件選別と回収強化によりファイナンス・リース、営業貸付金残高が減少し、これに伴い収益も減少しました。
- ・ 不良債権の早期回収等により貸倒引当金繰入額は増加しました。
- ・ 不良債権の新規発生は前第4四半期以降大幅に減少しています。

【メンテナンスリース事業部門】

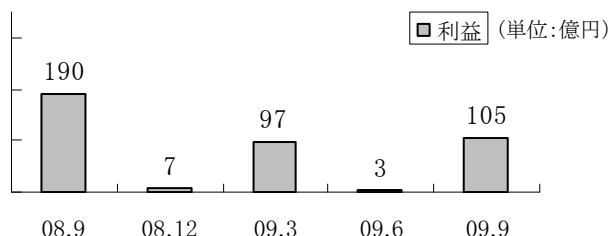
自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース



- ・ 業界 NO.1 シェアと高付加価値サービスの提供により、利益は安定的に推移しています。
- ・ 法人顧客の設備投資意欲の減退により、収益は減少しました。
- ・ 中古車市場低迷に伴う慎重な残存価額設定等により、減価償却費が増加しましたが、販売費および一般管理費は計画通り減少しました。
- ・ セグメント利益は、通期見通し対比 43%の進捗となりました。

【不動産事業部門】

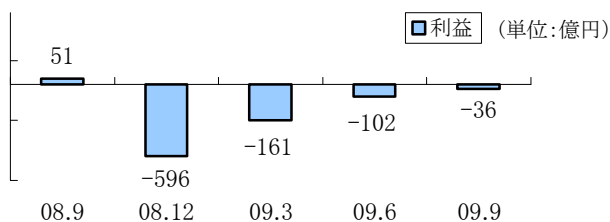
オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所等の運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人(REIT)の資産運用・管理、不動産投資顧問



- ・ インテージ秋葉原ビルの売却益約 70 億円を計上しました。
- ・ マンション分譲事業は引渡し戸数が減少したものの、評価損の発生は大幅に減少、前年同期累計比利益は増加しました。
- ・ セグメント利益は、通期見通し対比 54%の進捗と順調に推移しています。

【投資銀行事業部門】

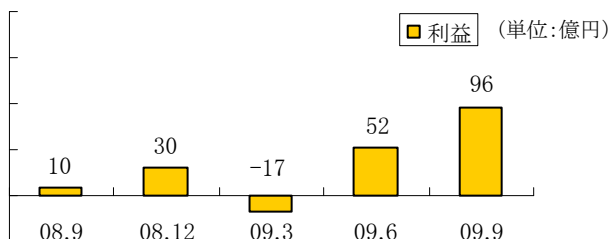
不動産ファイナンス、商業用不動産担保ローンの証券化、サービサー(債権回収)、プリンシパル・インベストメント、M&Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル



- ・ 不動産ファイナンス事業では、回収の強化および新規実行の減少により資産残高が減少し、それに伴い収益や利益も減少しています。
- ・ 投資先持分の減損等、一過性の損失計上が減少し、前第 3 四半期以降、セグメント利益の赤字幅は縮小しました。

【リテール事業部門】

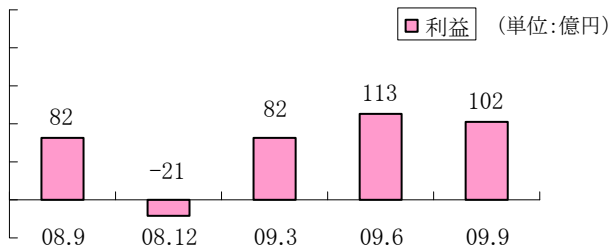
信託銀行、生命保険、証券、カードローン



- ・ オリックス・クレジットの三井住友銀行との共同事業は、7 月 1 日に予定通りスタートしました。
- ・ 信託銀行業は貸倒引当金繰入額が減少し増益。預金量も拡大しています。
- ・ 生命保険事業は保険・運用損益ともに改善しました。
- ・ セグメント利益は、通期見通し対比 74%の進捗と順調に推移しています。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連



- ・ (米州)株式・債券市場の改善に伴い、有価証券の実現益が増加しました。
- ・ (アジア)プリンシパル・インベストメント投資からの利益が貢献しました。
- ・ 金融資本市場の回復が見られる中、セグメント利益は、現時点で期初見通しを大きく上回る結果となりました。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL: http://www.orix.co.jp/grp/ir_j/data/

以上

<本件に関するお問い合わせ先>
 広報部 横井／経営計画室 I R 担当 金澤
 TEL : 03-5419-5102